

様式第2号(第7条関係)

会議の開催結果

1 会議の名称	さいたま市総合振興計画審議会第1部会(第2回)
2 会議の開催日時	平成25年5月21日(火) 14時00分から16時00分まで
3 会議の開催場所	市民会館うらわ 第101集会室
4 出席者名	審議会委員:秋元智子委員、石關精三委員、猪瀬良一委員、上田彰一郎委員、久野美和子委員、作山康委員、中邨登美枝委員、丸山繁子委員、森本章倫委員 事務局:江口明男、松井雅之、小島豪彦、松尾真介、富田昌洋、猪狩文康、南友和、鈴木慶一
5 議題及び公開又は非公開の別	議題 ・第1回部会の主な意見について ・分野別計画(素案)について(都市基盤・交通、環境・アメニティ) ・その他 公開又は非公開の別 公開
6 非公開の理由	—
7 傍聴者の数	0人
8 審議した内容	別紙、議事概要のとおり
9 問合せ先	政策局政策企画部企画調整課 電話番号 048-829-1035
10 その他	

さいたま市総合振興計画審議会第1部会（第2回）議事概要

第1回部会の主な意見について確認した後、分野別計画（素案）のうち、都市基盤・交通の分野及び環境・アメニティの分野（一部）について審議しました。

議題（1）第1回部会の主な意見について

事務局から、資料1に基づき第1回部会の主な意見について説明があり、確認しました。

議題（2）分野別計画（素案）について（都市基盤・交通、環境・アメニティ）

事務局から、資料2及び3に基づき次について説明があり、審議を行いました。

（都市基盤・交通）

- 施策1：低炭素で質の高い生活環境を提供する市街地の形成
- 施策2：にぎわいや交流を創出する魅力的な都心・副都心の形成
- 施策3：暮らしや交流、活力を支える交通体系の構築
- （仮称）皆さんも取り組んでみませんか？

（環境・アメニティ）

- 施策3：人と自然が共生する緑豊かな都市の創造
- （仮称）皆さんも取り組んでみませんか？

【主な意見】

（都市基盤・交通）

- 施策1：低炭素で質の高い生活環境を提供する市街地の形成について
- 施策2：にぎわいや交流を創出する魅力的な都心・副都心の形成について
- 施策3：暮らしや交流、活力を支える交通体系の構築について

〈施策展開〉

- ・施策1の施策展開「（2）市街地内の緑の空間づくり」について、公園を整備するだけでなく、公園のマネジメントや運営管理の発想を盛り込めるよう表現を工夫した方が良い。
- ・都市のつくり方に、美しさなど景観に関する視点も盛り込まれると良い。
- ・施策展開のタイトルには、素人でも何をやるのか分かるように表現を工夫してほしい。
- ・自転車利用推進の目的としては、二酸化炭素排出量削減などのグリーンイノベーションに加え、健康増進などライフイノベーションの側面も考えられる。

〈成果目標〉

- ・施策1の成果目標について、市民アンケートに基づく市民満足度だけでなく、二酸化炭素削減率や緑化率など統計データ等から見た客観指標があっても良い。
- ・施策2の成果目標について、魅力的な都心・副都心としての感じ方を、滞在時間

に置き換えて測って良いものか悩みどころである。

- ・施策3の成果目標について、ストレスフリーという言葉ではなく、もう少し分かりやすい表現を用いた方が良いのではないか。

(環境・アメニティ)

○施策3：人と自然が共生する緑豊かな都市の創造について

〈施策展開〉

- ・生物多様性を守るためには水や緑のネットワークの整備が大事である。
- ・見沼田圃は偶然残ったものではなく、洪水対策のために農家が守ってきたもので、さいたま市の防災を支えるポイントとなっている。人を癒し再生するホスピタリティの機能もある。単に大事であるというだけでなく、こうした内容も表現してほしい。
- ・見沼田圃はただの緑地ではなく農地なので、農業を守っていくといった記述が薄いと感じる。
- ・見沼田圃には極相林がない。人との関わりの中でどういう環境をつくるか考えていく必要がある。
- ・環境保全や自然保護のために市民参加をどう促すか、自分のこととして参加するための支援策や誘導策が必要である。
- ・かつては多くあった豊かな里山が減少してきたので、里山の保全についても加えてもらいたい。

〈成果目標〉

- ・成果目標に、市民の感覚による指標と、市民の参加度合による指標が混在しているが、どのように統一するかが課題ではないか。
- ・「自然環境の保全活動に取り組んでいる市民の割合」について、環境保全は自然だけではないので、より全体にかかる指標になるのではないか。
- ・「自然が身近にあると感じる市民の割合」は、市内でも地域によって異なると思うので、単に平均値を掲げるより、低い地域を高い地域まで上げるという考え方もある。

○分野別計画（素案）全般について（都市基盤・交通、環境・アメニティ）

- ・さいたま市には都市の生活だけでなく水や緑、農の要素もあって、次世代のライフスタイルを実現できるところが強みである。
- ・将来のさいたま市らしい暮らしをイメージしたストーリーを考えて、参考資料などで盛り込むと面白い。
- ・さいたま市はハード面に加え、ヒト、モノ、コト、クオリティなどソフト面との総合力で見ると、良い資源がたくさんあって他市より優位性を持っているので、それらを総合化したものをこの計画に表せると他との差別化を図れる。

○分野別計画（素案）成果目標全般について

- ・ 5年後、10年後にも比較できるよう文言も含め吟味する必要がある。
- ・ 市民アンケート結果を成果目標として用いるならば、市民アンケートを継続的に実施することが前提となる。
- ・ 次期基本計画に新たに成果目標を設けたことは、市民側に立って「向上させる」という意気込みを示す意味で評価できる。
- ・ 欧州や国内他市における成果目標を参考にして、本市だけでなく、他地域の満足度や整備率等と比較するなど、横とのチェックができた方が良い。
- ・ 5年後、10年後にもあまり費用をかけずにデータが取れるような持続可能な指標を置いた方が良い。
- ・ 目標値について、根拠がないのであれば設定する必要はないように思う。
- ・ 今後のいろいろな変化を踏まえると、成果指標をあまり細かく設定することは難しい。

○分野別計画（素案）「（仮称）皆さんも取り組んでみませんか？」全般について

- ・ 上からの押し付けではなく、こんな参加の仕方もあるというように、市民がやりたいと思える表現にしてほしい。
- ・ 市民の意見が反映され、柔らかい表現となっていて良い。
- ・ 「（仮称）皆さんも取り組んでみませんか？」が各施策のどこに繋がるのかといった流れが分かるつくりになると良い。
- ・ 施策を利用する人の立場でできているという視点は重要である。例えば、自転車専用レーンを整備する場合、利用者に、安全に使うための最低限のルールを守ってもらうような表現の工夫があっても良い。

その他

事務局から、部会の第3回開催日程について連絡しました。

○6月6日（木）午後2時から